

平成 26 年度「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」

共同利用・共同研究個人型共同利用の成果報告書

「チェルノブイリ原発事故後の民間医療支援活動と「異文化接触」」

白村 直也

1. 研究概要

申請者は従来、ソ連、ロシアにおける障がい者社会政策と当事者社会運動の歴史を追ってきた。また、ここ数年は 1986 年に発生したチェルノブイリ原発事故で被災し、何らかの障がいを負った人々に対する社会保障のあり方と当事者社会団体の動きに注目している。

本研究においては、従来の申請者の研究手法から少し視点を変え、今現在も被災地への支援活動を続けている日本国内の民間団体にアンケート調査をとり、彼らが支援活動をするにあたって遭遇した問題の把握に努めた。その結果浮かび上がったのは、言葉の壁があったのはもちろんのこと、支援者と被支援者間で起こった「異文化接触」上の問題であった。申請者はこうしたアンケート調査を経て、チェルノブイリ原発事故後の民間医療支援活動の「経験」について一定の理解を得るに至った。それを踏まえて本研究では、チェルノブイリ原発事故後の海外からの支援受け入れ過程を、被災国(とりわけベラルーシ)側の資料をもとに後付し、その際に浮かび上がった「異文化接触」上の問題をより具体的に浮かび上がらせることを目的とした。

2. 調査成果

今回の共同利用型研究においては、新聞「ソヴィエツカヤ ベラルーシ」(1992-1995 年)を読み、紙面に掲載された関連記事を拾い上げることに多くの時間を割いた。申請者は 2015 年 3 月上旬に 3 日間、そして同月下旬に 5 日間北大に滞在したが、時間に制限があるため各新聞記事の内容を深く吟味しながら取捨選択することはできなかった。結果として気になる記事をコピーして持ち帰ることとし、今現在はその読み込み作業に従事している。

(2) 今回の二度の滞在前にはある程度の下準備(あたるべき資料のリストアップ)は出来ていたため、新聞の以外のロシア語や日本語資料へあたることもスムーズにできた。

今回の滞在を通じて北大スラブ・ユーラシア研究センターの原田さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。